

北海道環境保全技術協会主催
H17 年度第 3 回環境保全技術セミナー
「緑化技術特集」

日時：平成 17 年 12 月 2 日（金） 午後 2 時～5 時 30 分

場所：かでの 2.7（札幌市中央区北 2 条西 7 丁目）

セミナー会場：7F・710 会議室

参加費：無料

< プログラム >

1. 開会挨拶

（14：00～14：05）

2. 「エコロターフ工法等によるターフランド整備の提案」

（14：05～14：55）

[概要]：裸地グラウンドの校庭では、通気性や保水性が悪く、有機物やミネラル成分も不足しています。このため芝を張っただけ、種を蒔いただけでは持続性のあるターフランドの造成はできません。北海道ターフ技術協会では、芝生の育成に適した土壌の改良と均質な発芽・育成を実現した緑化資材によるエコロターフ工法、既存のグラウンド土壌を播種床としたソイルコンデショナー工法、クッション性と排水性の向上を確保するソイルコンデショナーを利用したトラック整備をご提案します。

[発表者]：北海道ターフ技術協会（道環協会員） 事務局長 赤石宏昭

3.（15：00～17：30）

「現存の埋土種子を活用したマザーソイル工法と関連技術」

[概要]：マザーソイル工法は現存の埋土種子を活用した緑化工法で国立・国定公園や周辺環境に配慮した地域に適した緑化工法です。自然生態系保全を図る緑化工法です。

「飛来ステーション工法による自然回復緑化」

[概要]：飛来ステーション工法は飛来種子をキャッチしやすいように立体構造のネットを使用しており、周辺環境との調和を旨とする自然回復緑化工法です。

「エコステーション工法による水環境を考えた緑化工法と機能性木炭の特徴」

[概要]：エコステーション工法は水質汚濁の一因でもある硝酸性窒素の流出を抑制できる緑化工法であり、化学肥料をまったく使用していない循環型緑化工法です。またエコステーションの中に使用している機能性木炭は硝酸性窒素吸着だけでなく色々な効果が有り、水質浄化に関わる方や官庁コンサルの方にもぜひとも聞いて頂きたい。

[発表者]：北海日植株式会社（道環協会員）

日本植生株式会社 営業推進部技術部長 小畑秀弘、技術部技術二課長 津下圭吾

4. 閉会挨拶

参加総数 94 名（会員：27 名、非会員：19 名、官庁関係：38 名、その他：10 名）

